

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成19年12月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0770301786		
法人名	医療法人社団 平成会		
事業所名	健康倶楽部郡山 グループホーム「オークヒルズ」		
所在地	〒960-8051 福島県郡山市富久山町八山田字南広谷20-4 (電話) 024-935-2573		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成19年11月15日	評価確定日	平成20年1月11日

【情報提供票より】 (平成19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 15人, 非常勤 2人, 常勤換算	15.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋平屋 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名
要介護3	5 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85 歳	最低 73 歳	最高 103 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	財団法人脳神経疾患研究所所属 総合南東北病院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

新興住宅地として急速に発展している地域であり、ホームの向かいにも新しい住宅が次々に建てられており、地域住民との交流や支えあいの環境が整っているホームである。開設後4年経過し、管理者はじめ職員も、利用者が住み慣れたところで安心して生き生きと暮らせることを理念に支援しており、快適な環境の中で落ち着いてゆったりした生活を過ごしていることがうかがわれる。特に介護計画が実際的な介護記録の中で十分活かされ、カンファレンスシートにより柔軟な見直しが行われており、利用者主体の生活を反映した計画となっている。前年度外部評価の改善事項であった早出職員の配置についても2名体制に改善されており、評価の意義を理解し実行されている。なお、運営推進会議の意義については、十分理解され活用に努めているが、概ね2ヶ月に1回定期的に開催することが望ましい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 早出職員の配置については、改善され実行されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は全員で行ない、その結果を管理者が総括的に評価し職員に周知している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 運営推進会議では、参加者との意見交換が十分なされているが、会議内容の記載が不十分であるため、審議内容を明確に記載されることが望まれる。また、地域密着型サービスとしてのグループホームの日々のサービス提供内容、活動等についての説明や、自己評価や外部評価の結果の公開に対する意見交換等を行い、一層、開かれたグループホームに発展されることを期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月1回、定期的にお便りを発行し個々にコメントを加え生活状況を伝え、また受診記録等健康状態を報告している。利用者のお小遣いは、ホームが立て替え、領収書を添付し、家族に用途の確認を得て、精算しており、適正に行なわれている。ユニットごとに意見箱が置かれており、運営推進会議等でも家族の要望や意見等が出されるよう発言の場を設けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、ホームの行事を通知したり、町内の子供祭りの際には立ち寄ってもらい、交流を深めている。地域の消防署との連携を密にしており、避難訓練にも協力を得ている。ボランティアの受け入れも積極的である。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして利用者が地域の中で暮らすことと、地域住民の一員として支え・支えられることを事業所の独自理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が理念を理解し共有しながら、利用者が自分らしく安心して地域との交流を持ちながら、暮らし続けることができるよう支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員等が運営推進会議のメンバーになっており、地域情報の収集やグループホームの行事等のお知らせなどの双方向の情報交換が行われ、お互いにイベントに参加し交流が行われている。町内会のイベントの招待も受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で取り組んでおり、評価の意義を理解している。勤務体制についても人員配置を検討し改善されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議開催当初は委員の認識や理解が十分でなくホーム側の一方向的な情報提供になっていたが、回を重ねるごとに委員からの意見、要望、地域情報提供がなされるようになり双方向の協議が行なわれている。なお、今後はテーマとして自己評価の内容説明や外部評価結果の公表などを取り上げ、質の向上に役立ててほしい。		運営推進会議の開催については、概ね2ヶ月に1回定期的に開催されることが望ましい。また、会議録の記載がやや不明瞭なので、分かりやすい記載の仕方を検討されたい。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者個人ごとに暮らしぶり、近況報告や受診状況通院結果などを報告している。利用者のお小遣いはホームが立て替え、家族に領収書を添付し用途の確認を得て精算しており、立替金銭の管理は適正に行なわれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が気軽に意見が言えるよう職員も聴く場面づくりをしている。意見箱も設置してある。運営推進会議でも家族の意見や提案がされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動による配置替えが多いようであり、利用者への影響を極力少なくするよう数日間、新旧の職員が重複して介護に当たるなどしてスムーズに移行できるよう努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修には、計画的に参加させ、職員それぞれの段階に応じたステップアップを図っている。新人には日常的にOJT（働きながらのトレーニング）を行なっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議の研修に参加し、他の参加者との情報交換を行なっているが、法人内のグループホームを利用者と一緒に訪問し交流することを検討している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に過ごしながら、人生の先輩として知識や技術(編み物、畑仕事等)を教えてもらう場面をつくり、共に笑い、支えあう関係を築く努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が現実には何を望み、どのような要望を持っているのか等知るために日常の会話や行動から推測したり、家族から情報を得ながら把握に努めている。また、センター方式の暮らしの情報や焦点情報を活用し、きめ細かに情報を把握し活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員で個別の記録をもとに、定期的にケアカンファレンスを行い、家族等の意見を取り入れながら、変化を見逃さず柔軟に対応しながら目標に向けてのモニタリングを行ない、利用者にとって適切な計画となるよう努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの見直しを行なっている。また、ケアプランの実施記録表の中で、プランの内容に即したケアが実際に行なわれたかどうかを記載し、行なわれない場合は何故できなかったか等の原因を検討し、計画作成担当者は職員や家族と相談・協議しながら、ケアプランの見直しや追加等現状に即したプラン作成を行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員の同行により、かかりつけ医等の受診が行なわれているが、利用者の状況によっては往診により対応している。家族支援を得ながらの適切な医療受診が行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人として重度化体制や看取り体制に関する指針を作成し、事業所として可能なケアについて入居時に説明をしている。利用者及び家族に対し、看取り等についての事前確認・同意書を取り交わすこととしている。職員間でも主治医との連携により終末期の方針についての理解を深めているが、今後は一層の定期的研修を行なうこととしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライドを尊重し言葉かけにも十分配慮し、利用者本位のケアに努めている。また、職員も個人情報の取り扱いには十分留意し守秘義務に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体状況や気分等時々の状況を、職員間で情報を共有しながら、それぞれのペースでゆったりと自由に過ごせるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けも心身の向上や生活リハにつながるよう工夫し、利用者がそれぞれのペースで行なっている。職員も一緒に食卓を囲み、重度の方にもペースに合わせながら声かけをしたり、会話をしながら楽しんで食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望する時間帯に入浴できるようにし、プライバシーに配慮し、さりげなく見守り支援している。入浴を好まない重度の方に対してもタイミングや状態を観察しながら支援に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者の日々の暮らしの中で把握できる好みや生活歴を活かしながら、畑作業等得意な分野での役割を見つけ、職員がお願いしたりし感謝しながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者の希望を取り入れ、できるだけ屋外へ出かけるよう配慮しており、重度の方にも気分転換に外気浴を試みている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠していない。また、突然外出されるような利用者にも、さり気ない声かけをしながら一緒に行動し、自由な暮らしを支えるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防署の協力を得ながら、防火管理者を中心に消防訓練計画により、年2回定期的に避難訓練を行なっている。また、管理者を中心として夜間想定避難訓練を毎月1回程度自主的に行なうこととしており、積極的な災害対策への取り組みが感じられる。ただ、備蓄は医薬品等に限定されている。	○	法人全体として災害等に備えた準備が必要である。例えば、食料や飲料水、暖をとるための石油ストーブ等を検討されたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別のチェックは検温管理表に併記し食事や水分の摂取量を把握している。また、デイサービスセンターの管理栄養士にメニューをチェックしてもらい栄養バランスには特に留意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が広いので、利用者は思い思いの場所でゆったりと落ち着いて過ごしている。歌をうたったり、レクリエーション体操を行ったりして利用者と職員とが和やかに交流している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室も広く明るく清潔に保たれている。それぞれの思いの品や家具などを置いて心地よく過ごせる居室になっている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム「オークヒルズ」

記入担当者名 池田 久栄

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。